その他の公共施設

施設概要

◇まちづくりプラザ

中心市街地の活性化や市民交流の拠点の創出のため、平成12年3月に民間企業から購入し、現在 は、施設に事務所を置く団体による市民活動支援事業などが行われています。

◇際波教職員住宅

教職員の福利厚生を充実させることで人事行政を円滑に行うため整備したもので、市内小中学校 に勤務する教職員を対象に居住させています。

◇旧ガス事業庁舎

公営ガス事業用の施設として設置されましたが、平成25年の事業廃止以後は、民間への貸付や倉庫として活用しています。

◇旧市営駐車場

道路交通の円滑化を図り、市民の利便に資するとともに、都市の機能維持及び増進に寄与することを目的に市営駐車場として整備しましたが、中心市街地の変遷や今後のまちづくりを踏まえ、令和元年度をもって市営駐車場事業を終了としました。現在、その土地を民間に貸し付けて、有効利用し、中心市街地の活性化を図っています。

◇消防庁舎

消防行政を行うため宇部・山陽小野田消防組合に貸し付けて、消防職員が災害対応・消防事務を 行うだけでなく、民間の事業所担当者や地域防災を担う市民が各種届出や訓練参加の窓口として利 用するなど、市民の安心・安全を守るため必要不可欠な防災拠点施設として整備されています。

◇旧吉部小学校

昭和38年度に小学校として整備され、小学校移転後は地域活性化のためのイベント会場やカフェとして利用しています。

◇旧山口井筒屋宇部店

今後、宇部市が中心市街地における多世代のにぎわい創出の拠点としていくために取得した建物で、解体または改修して新たに利活用するため、ゼロベースで再検討しています。

この間(令和3年度)、既存建物を活用し、「常盤町1丁目スマイルマーケット」(トキスマ)として運営していきます。

◇宇部市駐車場(立体駐車場)

主に市役所に来庁される市民のための駐車場として整備され、近隣施設の利用者を含めた市民の駐車場及び公用車駐車場として使用しています。

令和2年4月1日現在の施設概要

施設名称	地区	建築年度	築年数	構造	耐湿	登化 改修	延床面積 (㎡)	運営	防災 施設
まちづくりプラザ	神原	昭和48年度	46年	R C	未	未	768.14	直	非該当
際波教職員住宅	西宇部	平成2年度	29年	R C	不要	不要	444.12	直	非該当
旧ガス事業庁舎	神原	昭和41年度	53年	R C	未	未	1,549.74	直	非該当
旧市営駐車場	新川	昭和49年度	45年	S	未	未	2,867.69	委	非該当
宇部・山陽小野田消防局 中央消防署	神原	昭和63年度	31年	R C	不要	不要	3,241.28	直	該当
西消防署	厚南	昭和52年度	42年	R C	未	未	847.62	直	該当
中央消防署 東部出張所	西岐波	昭和54年度	40年	R C	未	未	460.86	直	該当
西消防署 北部出張所	二俣瀬	平成6年度	25年	R C	不要	不要	520.65	直	該当
西消防署 楠出張所	船木	平成29年度	2年	R C	不要	不要	676.09	直	該当
旧吉部小学校	吉部	昭和38年度	56年	R C	未	未	1,082.47	直	非該当
旧山口井筒屋宇部店	神原	昭和52年度	42年	S	済	一部未	15,814.37	委	非該当
宇部市駐車場(立体駐車場)	神原	令和元年度	0年	S	不要	不要	4,080.80	直	非該当

※RC・・・鉄筋コンクリート造、S・・・鉄骨造、CB・・・コンクリートブロック造、W・・・木造

【備考】

- ・建築年度、築年数、構造、耐震化は、主たる建物の状況を記載しています。
- ・耐震化について、昭和57年以降の建築物(新耐震基準)、耐震診断により新耐震基準を満たしていることが判明した建築物は、「不要」と記載しています。
- 運営について、直営は「直」、指定管理は「指」、委託(指定管理を除く。) は「委」と記載しています。
- 防災施設について、災害時に避難所、緊急避難場所、防災拠点として使用される施設は、「該当」と記載しています。

施設評価及び今後の方向性

担当課		1次評	価(定量	評価)		2 次評価(定性評価)								
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率	評価 (利用)+(約		ルト*のi 建物性		施策上	等の必	要性	代替の可能性				
商工振興課	В	Α	Α		С			0点		3点				
		評化	両結果の分	析				Ē	平価結果	その分析 こうしゅう				
	1階は地	域FM局、	2階は市風	民活動	はンター、	3階	中心市往	地の活	性化、	市民交流の拠点の創				
	の1部屋	は民間事	務所、4階	的1部	『屋はフ	_	出を目的	として	、民間	企業から購入したも				
	ドバンク	で使用中	ヮであるが	、築後	後46年を	·経	の。現在	では、	行政と	:して保有する施策上				
	過してき	き ちんのた	:め4階の3	空き室	では雨	漏	の必要性	は低い	١.					
	りしてぃ	りしている。耐震診断は未実施で、隣接の												
	 建物や商	建物や商店街のアーケードも接しており大規模												
	な改修に	な改修は困難。												
				今	後の方向	9性	(R2~F	(11)						
 まちづくりプラ ザ		機	能の方向	性					建物の	方向性				
			機能移転						売	却				
				スケシ	ジュール	,				対策費(千円)				
	R2	R3 R	4 R5	R6	R7	R8	8 R9	R10	R11	0				
	説 明													
	昭和48年度に建築され46年経過した施設である。老朽化に加えて隣接の建物や商店街の													
	アーケードも接しており大規模な改修は困難である。民間利用も含め、市民活動セン													
	ターの機	能を移転	後、解体	又は引	も却を検	討す	る。							

担当課		1 次訓	平価 (定量	評価)		2次評価(定性評価)					
施設名称	利用状況	ソフト <i>の</i> と 経費効率)評価 (利用)+(i		ルト*の記 建物性		施策上	等の必	要性	代替の可能性	
学校教育課	С	Α	В		Α		0点 1点				
אַענאַרינ		評	価結果の気	分析			Ē	平価結果	果の分析		
	入居者(の減少かり	5、利用状	状況の	点数が低	利用状沉	が設置	目的と	合致しておらず、設		
	い。ハ-	- ド面に	ついては良	好で	ある。	置目的の	有効性	は低い	١°		
							民間の賃	貸住宅	への機	能の代替が可能であ	
							る。				
				9	後の方向	匀性	(R2~R	11)			
		杉	態能の方向]性					建物の	方向性	
 際波教職員住宅			廃止				売却				
				スケ	ジュール					対策費(千円)	
	R2	R3 R	4 R5	R6	R 7	R8	8 R9	R10	R11	0	
					Ē	兑	明				
	利用者力	が年々減少	りしたこと	で空	き部屋が	多く	、今後の	利用回	復も見	込めず、民間の賃貸	
	住宅で作	代替が可能	能であるこ	ことか	ら廃止と	する	· > ·				
	平成2年	度建築で	ハード面	につい	いての評	価点	は良好の	ため、	売却を	検討していく。	

担当課		1次評	価(定量評値	西)	2 次評価(定性評価)								
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率	評価 (利用)+(経費	ルト*のi) 建物性		施策上	等の必	代替の可能性					
財政課	С	Α	В	А			0点		0点				
NU N		評値	西結果の分析	i			Ē	平価結果	その分析 こうしゅう こうしゅう こうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう				
	昭和414	年度建設で	で耐震診断は	未実施であ	5る	建物の有	効な利	活用に	向けて検討する。				
	が、小規	が、小規模修繕を行いながら現状維持とす											
	る。	5.											
				今後の方向)性	(R2∼R							
		機	能の方向性					建物の	方向性				
 旧ガス事業庁舎			廃止					売却	・貸付				
旧乃入乎来门日				ケジュール					対策費(千円)				
	R2	R3 R4	1 R5 F	R6 R7	R 8	3 R9	R10	R11	0				
				=	ч	08							
	説明												
	公営ガス事業用の施設として設置されたが、平成25年の事業廃止以降は行政目的及び将来の利用を表示された。												
	来の利用計画がない売却可能資産となっている。昭和41年度建設で、耐震診断未実施の 控制であるよう。												
		施設であるため、当面は倉庫として使用しつつ、さらなる有効な利活用(新たな投資の 抑制)に向け検討する。											
	抑制 <i>)</i> ((_同け検討	9る。										

担当課		1次評	価(定量	評価))			2次	評価(定性評価)	
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率		経費)	ルト*のi 建物性		施策上	等の必	要性	代替の可能性	
都市計画・住宅課	Α	Α	Α		С		1点 3点				
		評価	面結果の分	分析				Ē	平価結り	その分析 こうしゅう こうしゅう こうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう	
	周辺商品	話句の衰退	などによ	り利	用者は洞	少	市営駐車	場事業	を民間	の運営手法を活用	
	してるた	が、通勤者	等の定期	利用	により安	定	し、効率	的な利	J用促進	と利便性の向上を図	
	的な収入	を確保し	ている。	新町	有料駐車	場	るため、	当事業	を終了	"し、今後は中心市街	
	は、老杯	5化により	大規模改	修が	必要とな	つ	地の活性	化に向]けて、	民間活力の活用を図	
	ている。						る種地と	しての	可能性	等について検討す	
							る。				
				4	後の方「)性	(R2~R	.11)			
		機	能の方向	性					建物の	方向性	
 旧市営駐車場			廃止				解体				
				スケ:	ジュール					対策費(千円)	
	R2	R3 R	4 R5	R6	R7	R8	8 R9	R10	R11	71,433	
										7 17 133	
							明				
	民間の経営手法を活用した効率的な運営と利便性向上による利用促進を図るため、令利										
	元年度をもって市営駐車場事業を廃止した。廃止後は、寿町第一及び寿町第二有料駐車										
	場は、民間に貸し付け、駐車場として活用しつつ、中心市街地活性化との整合性を図										
	ながら、	今後の有	対活用を	検討	していく	。新	1町有料駐	車場は	令和2	年度中に解体し公用	
	車駐車場	易として整	経備する。								

担当課		1次評	価(定量評	平価)			2 次評価(定性評価)				
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率	評価 (利用)+(経		い。の評 建物性		施策上	等の必	要性	代替の可能性	
防災危機管理課	Α	Α	Α		С			4点		0点	
		評值	話果の分表	析			評価結果の分析				
	消防行政	女のため職	員・市民な	が利用	してい	る	消防組合	の条例	で定め	られた消防本部とし	
	防災拠点	まであるが	、建物のも	5 朽化	どが進ん	で	ての機能	及び宇	部中央	消防署の管轄(常	
	いる。平	元成24年度	要に屋上防?	水シ-	- ト張替	を	盤、神原	、藤山	区域等	(1) の消防事務を担っ	
	実施した	<u>-</u> - °					ている。	消防施	設は、	代替施設等が考えに	
							くいため	、引き	続き防	i災拠点としての機能	
							を維持し	ながら	利用す	る必要がある。	
				今往	後の方向]性	(R2~R	11)			
中 郊 山畑山田田		機	能の方向性	ŧ					建物の	方向性	
宇部・山陽小野田			現状維持				現状維持				
消防局			7	スケジ	ジュール		対策費(千円)				
中央消防署	R2	R3 R4	1 R5	R6	R7	R8	3 R9	R10	R11	0	
						,					
					訪	t	明				
	昭和63年	年度に建設	とされた築行	後31:	年が経過	直する	する耐震性を有する施設である。				
	日常的補	態を適宜	実施し、ヨ	見状を	を維持し	てい	\ <.				
1											

担当課		1次評	価(定量評価	西)		2次	評価(定性評価)			
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率	評価 (利用)+(経費	ルト*の評 建物性能		施策上	等の必	要性	代替の可能性		
 防災危機管理課	Α	В	Α	С		4点 0点					
1757 (75 172 L LDK		評估	5結果の分析	<u>'</u>			Ē	平価結果	果の分析		
	消防行政	のため職	員・市民が	利用している	3	消防組合	の条例	で定め	られた宇部西消防署		
	防災拠点	であるが	、昭和52年	度建設であ		の管轄	(厚南、	黒石、	西宇部、原区域等)		
	り、建物	の老朽化	が進んでいる	5.		の消防事	務を担	ってい	る。消防施設は、代		
						替施設等	が考え	にくい	ため、引き続き防災		
						拠点とし	ての機	能を維	持しながら利用する		
						必要がある。					
				今後の方向	性	(R2~R	(11)				
		機	能の方向性					建物の	方向性		
 西消防署			現状維持			更新					
四月则有 			スク	アジュール					対策費(千円)		
	R2	R3 R4	1 R5 R	6 R7	R	8 R9	R10	R11	755,505		
				説		明					
	昭和52年	F度に建設	とされた築後	42年が経過	<u>ま</u>	る庁舎で	あるたる	め、施語	段の劣化状況等を総合		
	的に判断	fし、概ね	築45年を経	過する時期	を目	目途に、消	肖防敷地	也内に延	建替更新を進めてい		
	<.										

担当課		1次評	価(定量評価	fi)		2 次評価(定性評価)					
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率	評価 (利用)+(経費)	ルート*の評 建物性能		施策上	等の必	要性	代替の可能性		
防災危機管理課	А	С	Α	С			4点		0点		
		評值	晒結果の分析	1			Ē	平価結果	その分析 こうしゅう		
	消防行政	女のため職	員・市民が和	川用している	3	消防組合	の条例	で定め	られた宇部中央消防		
	防災拠点	aであるが	、昭和54年原	度建設であ		署の管轄	のうち	宇部市	東部地域(東岐波、		
	り、建物	の老朽化	が進んでいる	5.		西岐波区	域等)	の消防	i事務を担っている。		
						消防施設	は、代	替施設	等が考えにくいた		
						め、引き続き防災拠点としての機能を維持					
						しながら	利用す	る必要	!がある。 		
				今後の方向	性	(R2~R	11)				
		機	能の方向性					建物の	方向性		
中央消防署			現状維持			更新					
東部出張所			スク	「ジュール		l .			対策費(千円)		
	R2	R3 R4	1 R5 R	6 R7	R	8 R9	R10	R11	519,870		
									313,070		
				説		明					
	昭和544	昭和54年度に建設された築後40年が経過する耐震診断を実施していない庁舎であ									
	め、概ね	3築45年を	·経過する時期	朝を目途に	、消	肖防敷地内	小に建せ	替更新を	ど進めていく。		

担当課		1次評	価(定量評	平価)				2次	評価(定性評価)		
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率	評価 (利用)+(経		ルト・の評 建物性		施策上	等の必	要性	代替の可能性		
防災危機管理課	Α	В	Α		Α			4点		0点		
		評估	話果の分	析				Ē	平価結果	見の分析		
	消防行政	のため職	員・市民た	が利用	用してい	る	消防組合	の条例	で定め	られた宇部西消防署		
	防災拠点	で、平成	6年度建設	後、	大規模	な	の管轄の	うち宇	部市北	:部地域(厚東、二俣		
	修繕項目	は今のと	ころない。				瀬、小野	区域等) の消	防事務を担ってい		
							る。消防	施設は	:、代替	施設等が考えにくい		
							ため、弓	き続き	防災拠	点としての機能を維		
				ら利用	する必	要がある。						
				今	後の方向	9性	(R2~R	.11)				
		機	能の方向性	ŧ					建物の	方向性		
西消防署			現状維持				現状維持					
北部出張所			7	スケシ	ジュール		対策費(千					
	R2	R3 R4	1 R5	R6	R7	R8	8 R9	R 10	R11	0		
					_	4						
	T D = 5) I = 1- fr (//	4	<u> </u>		明		<u> </u>	. –		
		平成6年度に建設された築後25年が経過する耐震性を有する庁舎である。										
	日常的補 	日常的補修を適宜実施し、現状を維持していく。										

担当課		1 次記	平価(定 量	評価)	2次評価(定性評価)					
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率	○評価 (利用)+(経費)	ルト*の記 建物性		施策上	等の必	要性	代替の可能性	
防災危機管理課	Α	В	А		Α			4点		0点	
		評	価結果の	分析				Ē	平価結果	その分析 こうしゅう こうしゅう こうしゅう こうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう	
	消防行	政のため	哉員・市日	が利	用してい	る	消防組合	の条例	で定め	られた宇部西消防署	
	防災拠点	点で、平原	成29年度發	建築後	6、大規模	な	の管轄の	うち宇	部市楠	地域(船木、万倉、	
	修繕項	目は今の。	ところない	١٥			吉部等)	の消防	事務を	担っている。消防施	
							設は、代	替施設	等が考	えにくく、引き続き	
							防災拠点	えとして	の機能	を維持しながら利用	
							する必要	がある)		
				4	今後の方向	匀性	(R2~R	11)			
		杉	態の方向]性					建物の	方向性	
西消防署			現状維持	F			現状維持				
楠出張所				スケ	ジュール		対策費(千円)				
	R2	R3 R	4 R5	Re	R7	R	8 R9	R10	R11	0	
						.,					
					Ē.	兑	明				
	平成29	年度に建	設された「	テ舎て	ごあり、E	常的	り補修を追	固宜実 於	色し、羽	見状を維持していく。	

担当課		1次評	価(定量	評価)			2 次評価(定性評価)					
施設名称	利用状況	ソフトの 経費効率	評価 (利用)+(紹		ルト・の記 建物性		施策上	等の必	要性	代替の可能性		
北部地域振興課	Α	Α	А		С			3点		2点		
		評估	話果の分	析			<u> </u>	平価結果	その分析 こうしゅう こうしゅう こうしゅう しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう しゅう			
	イベント	会場やカ	フェ等で	地域(D活性化	の	北部地域	活性化	の拠点	ことしての機能があり		
	ため有効	活用され	ているが.	、施訓	役の老朽	化	必要性は	高いが	、老朽	化に伴い機能移転の		
	により毎	年修繕が	必要な状	況では	ある 。		検討を行	ってい	<.			
				今	後の方向	匀性	(R2~R	11)				
		機	能の方向性	生					建物の	方向性		
 旧吉部小学校			機能移転				売却					
			-	スケミ	ブユール		対策費(千円					
	R2	R3 R4	R5	R6	R7	R 8	3 R9	R 10	R11	0		
					_	V4						
	1777 O O A	7-b=0. V	1- 77.11		i.		明 ci==awc-	-	~ 1/- =n			
		昭和38年に建設され、築後56年を経過する耐震診断未実施の施設である。現在は有効										
		用されているが、今後、更に施設の老朽化が進み、多くの修繕が必要になると考えら										
	れ、また 	:、安全性	の面から	、令和	111年度	₹をE	目処に、検	態能移動	る後の原	発止を検討する。		

担当課		1 2	欠評値	西 (定量	評価)		2 次評価(定性評価)					
施設名称	利用状況	ソフ 足軽費効		平価 (利用)+(約		ルト・の語 建物性		施策上	等の必	要性	代替の可能性	
中心市街地にぎわい	-	_	-	_		С			_		_	
創出推進グループ			評価	結果の分	祈			Ē	平価結り	その分析 こうしゅう		
	店舗部	分の5、	6階	は、耐震	性に	問題があ	5る	評価対象	外			
	ため、	建物改作	修を記	実施する	場合	は、解体	し					
	て減築	する必	要がる	ある。								
						後の方向	9性	(R2~F				
			機能	能の方向'	性					建物の	方向性	
 旧山口井筒屋宇部店				検討中				検討中				
					スケ	ジュール		対策費(千円)				
	R2	R3	R4	R5	R6	R 7	R8	8 R9	R 10	R11	未定	
							ч					
	0 1			A		Ē	明					
	令和3£ 	令和3年12月を目途に当該建物の利活用方針を決定する。										

	<u>l</u>									
担当課	1 次評価(定量評価)						2次評価(定性評価)			
施設名称	ソフトの評価 利用状況 経費効率 (利用)+(経費)				ルート*の評価 建物性能		施策上等の必要性			代替の可能性
総務管理課	Α	Α	Α		Α		3点			0点
	評価結果の分析						評価結果の分析			
	令和元年度に新設した建物であり現状維持						中心市街地への集客及び来庁者用として必			
	とする。						要性は高く、代替の可能性は低い。			
	今後の方向性(R2~R11)									
	機能の方向性						建物の方向性			
宇部市駐車場	現状維持						現状維持			
(立体駐車場)	スケジュール						対策費(千円)			
	R2	R3 R4	4 R5	Re	R7	R8	8 R9	R10	R11	0
	説明									
	令和元年度に、中心市街地への集客及び来庁者用として建設した建物であり、現状を維									
	持していく。									